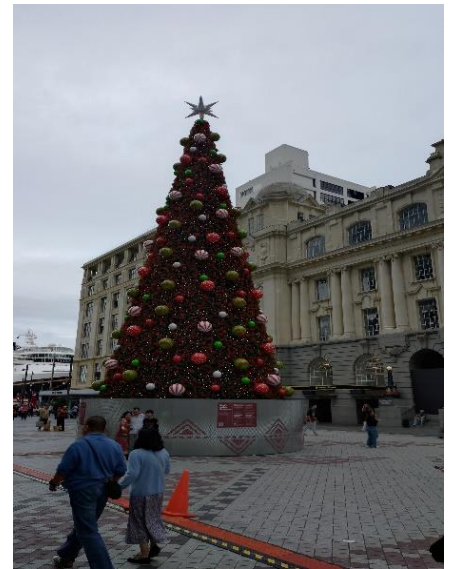


第12期Aコース（ニュージーランド）帰国レポート

令和6年1月に出発した第12期Aコース研修生が、同年12月2日(月)に、ニュージーランドのオークランド空港から、日本に帰国しました。1月の出発時は、留学生活に対する期待と新生活への不安が入り混じった表情の研修生が多く見られました。しかし、現地留学機関のスタッフの方やホストスクールの先生方、ホストスクールの友人たち、そしてホストファミリーといった多くの人々のサポートを受けながら、留学期間を終え、精神的にも逞しく成長することができました。

帰国時のオークランドは、季節は夏、クリスマスに向けての準備が街中で行われていました。



＜オークランドのクリスマスの風景＞

研修生は、ホストファミリーに別れを告げ、帰国前の特別プログラム会場であるオークランド市内の宿舎であるオークランド工科大学（Auckland University of Technology）の寮に集合しました。

2日間に渡る特別プログラムでは、研修生は、まず留学中に直面した課題やそこから学んだこと、得られたことなどについて全員が英語で報告し合いました。この報告し合う活動を通して、単に自身の留学経験を振り返るだけではなく、他の研修生がニュージーランドでの留学経験を共有することで、様々な角度から留学経験を見つめ直すことができました。



＜オークランド工科大学学生寮の外観＞



＜一年間の留學生活の振り返りを報告し合う研修生たち＞

また、現地のオークランド大学（Auckland University）の大学生3人との交流も行われました。オークランド大学の学生たちからは、オークランド大学の特色や魅力、選考している学術分野でどのようなことを学んでいるのか、大学進学の意味について等のことについて意見交換し、理解を深めました。交流の中で、「ニュージーランドでは大学ごとに特色が大きく異なり、その大学が強みとする学術分野があるため、ニュージーランドで大学を選ぶ際は、有名な大学教授を招聘する等力を入れている学術分野がどのような情報収集することが大切である。」ことや、「別の自分の興味・関心のある分野に自分が学びたい大学

教授がいるかどうかを確認したり、高校の成績がどのくらいかによって具体的な進学先を決めたりしている。」という話を大学生から聞き、研修生たちも自身の進学について考えを深めることができました。



＜オークランド大学生との交流＞



＜オークランド大学生を囲んでの集合写真＞

オークランド大学の学生たちとの交流の後は、“Connecting Japan, NZ, and the global world. Reflections for your future.”というテーマで、マッセー大学講師による講義が行われました。講義を通して、グローバリゼーションのメリットとデメリットや、グローバル社会におけるリーダーに必要な資質・能力について考えました。



＜マッセー大学講師による講義を受ける研修生＞

その後は、「将来の職業や進路について」というテーマで、ペーパーフィルターコーヒーの販売がほとんど行われていなかったニュージーランドでパイオニアとして未開拓の市場で実際に会社を起業された経営者の方と、都立高校出身の方で、現地で教員免許を取得し、現地の高校で日本語を教えている方のお二人にお話ししていただきました。現地で働く日本出身の方から海外での就学や就労経験を聞き、進路やキャリアについての考えを深めることができました。



＜将来の職業や進路について話しを聞く研修生＞

そして、最後に特別プログラムのまとめとして、各自がこの1年間のニュージーランドでの留学経験について、英語でプレゼンテーションを行いました。特に、次世代リーダー育成道場の留学プログラムを通してどのようなことを学んできたのか、日本にいたときは感じなかった自分自身に起こった意識の変化等について、英語を駆使して自分の考えを流暢に伝えられるようになった姿に成長が感じられました。



<英語によるプレゼンテーションの様子>

研修生たちはこのニュージーランドでの留学中、それぞれが大小様々な困難な出来事乗り越えることで、小さな成功体験を積み重ね、留学前より一段と精神的にたくましくなって日本に帰国しました。今後の次代のリーダーとしての活躍が楽しみです。



<帰国後の集合写真>